

令和6年度 兵庫県立明石城西高等学校 学校評価 自己評価および第三者評価

≪ 4段階評価 ≫ A:3.1以上 B:2.8以上 C:2.6以上 D:2.5以下 ≫

領域等	評価の観点	評価項目	教員(行動指標)	平均	評価	生徒(成果指標)	平均	評価	保護者(成果指標)	平均	評価			
学校運営	開かれた学校づくり	1	家庭や地域への情報発信	ホームページの更新、学年通信の発行等を通じて、保護者や地域に新しい情報を積極的に提供する。	3.3	A	1	学校HPや学年通信等で、学校や生徒の日常の様子リアルタイムで伝えられている。	3.2	A	1	学校HPや学年通信等で、学校や生徒の日常の様子リアルタイムで伝えられている。	3.1	A
		2	学校評議員等を活用した学校運営推進	学校評議員会や公開授業等を通じて、学校評議員や来校者等の意見を学校運営の改善に役立てる。	3.2	A								
	生徒指導(保健指導含む)	3	生徒指導方針の確認と指導体制の推進	生徒指導方針を生徒・保護者に明確に示すとともに、教職員が共通理解したうえで指導に当たる。	2.9	B	2	生徒指導方針が明確に示され、生徒の基本的な生活習慣の確立に向けて必要な指導が行われている。	3.1	A	2	生徒指導方針が明確に示され、生徒の基本的な生活習慣の確立に向けて必要な指導が行われている。	3.0	B
		4	生徒の内面の理解を図る指導の工夫	適宜個人面談を実施するとともにカウンセリングマインドの習得に努め、生徒の内面的理解に基づいた指導を行う。	3.3	A	3	不安や悩み事を学校(先生)に気軽に相談できる雰囲気がある。	3.0	B	3	不安や悩み事を学校(先生)に気軽に相談できる雰囲気がある。	2.8	B
		5	いじめの未然防止	本校のいじめ防止基本方針に基づいて適切にいじめ対策に取り組み、いじめを生まない土壌作りを努める。	3.2	A	4	学校全体として、いじめを生まない・許さない・放置しないという姿勢が感じられる。	3.3	A	4	学校全体として、いじめを生まない・許さない・放置しないという姿勢が感じられる。	3.0	B
	進路指導	6	体系的なキャリア教育の実践	進路HR及び講演会等を活用しながら、組織的・計画的にキャリア教育を行う。	3.2	A	5	進路HR・講演会・三者面談などを通じ、自分の進路実現につながる指導がなされている。	3.3	A	5	保護者会・三者面談等を通じて、学校と協力しながら、進路決定が進められている。	3.0	B
		7	主体的な進路選択の支援	進路選択に係る情報を提供するさまざまな機会を捉え、適時、面談等を通じて進路実現への意識を高める。	3.3	A								
	教職員の資質向上	8	実践的指導力の向上	公開授業・研究授業及び諸課題に係る校内研修の実施により、実践的指導力の向上を図る。	3.0	B	6	教材や指導方法の工夫が感じられる魅力的な授業が展開されている。	3.0	B			2.9	B
		9	社会の変化に対応した教育観の育成	校外研修や教育研究会等で得た情報や成果を共有し、社会の変化やニーズ、教育の新しい動向に対応しようとする。	2.9	B			3.1	A			2.9	B
		10	ICT利活用推進と進化(深化)	ICT(スマートフォンを含む)の利活用による教授方法の研究に努め、「わかる授業」を実践する。	3.4	A	7	ICT機器が積極的に活用され、「わかる授業」が展開されている。	3.1	A	6	ICT機器が積極的に活用され、「わかる授業」が展開されている。	2.9	B
	危機管理体制の整備	11	実効ある危機管理マニュアルの策定	実情に応じた危機管理マニュアルの作成・見直し・改善を行い、日頃から対応を意識した行動をとる。	2.8	B								
		12	教員の実践的な研修・訓練	重大事故発生時の適切な対応や、生徒・教職員の心のケア等についての研修を行う。	2.9	B								
	学校運営全般	13	校務分掌と協働体制の確立	各部の指導の重点または各学年の経営方針を定め、その実現に向けて協働する。	3.1	A					7	学年の経営方針(どのような生徒を育てたいのか)が示され、それに従った教育がなされている。	2.9	B
		14	勤務時間の適正化推進	勤務時間の適正化(「ノー部活デー」の取組を含む)に向けて取組むとともに、ワークライフバランスの実現に努める。	2.6	C	8	「ノー部活デー」の取組(適切な休養日の設定)などにより、バランスのとれた生活を送る環境が整えられている。	3.0	B	8	「ノー部活デー」の取組(適切な休養日の設定)などにより、バランスのとれた生活を送る環境が整えられている。	3.0	B
	PTCA活動	15	PTCA活動の充実	保護者や地域に教育活動を公開するとともに、家庭・地域ぐるみの活動の充実を図り、連携を深める。	3.0	B					9	学校と家庭・地域が連携し協力できる関係にある。	2.9	B
教育課程	自ら学び自ら考える力の育成	16	体験的・問題解決的な学習の展開	主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業改善に努める。	3.1	A	9	先生からの講義だけでなく、生徒が主体的に参加できる授業が展開されている。	3.1	A			2.9	B
	基礎・基本の定着	17	生徒の学力の把握と学習習慣の確立	ロイノートや「学習の記録」等の活用により、学力の把握・基礎基本の定着を図る。	3.1	A	10	家庭学習習慣や基礎学力が定着するような学習指導がなされている。	3.0	B	10	家庭学習習慣や基礎学力が定着するような学習指導がなされている。	2.9	B
	総合的な探究の時間	18	教職員の協働体制と創意工夫した実践	総合的な探究の時間について学校全体で取り組み、より充実した内容になるよう心がける。	3.0	B	11	総合的な探究の時間について学校全体で取り組み、より充実した内容になるよう心がける。	3.1	A				
	個に応じた学習指導の徹底	19	評価方法の創意工夫	シラバス・年間指導計画を作成し、観点別評価を適切に行うことなどにより、多様な生徒にきめ細かい指導を行う。	2.8	B	12	授業や考査・小テスト、提出物に関して、計画的かつきめ細かい指導が行われている。	3.2	A				
	特別活動(学校行事等)	20	自主的・実践的な活動の活性化	生徒会活動やホームルーム活動において、生徒の自発的・自治的な活動が行われるよう支援する。	3.2	A	13	学校行事が生徒主体で行われており、内容や実施時期が適切である。	3.2	A	11	学校行事が生徒主体で行われており、内容や実施時期が適切である。	3.2	A
課題教育	防災教育・安全教育	21	防災教育に係る指導力・実践力の向上	防災避難訓練の実施と危険箇所の点検、救急救命講習等により、教職員の意識と技術を高める。	3.0	B	14	非常時に安全迅速に行動できるように、防災避難訓練や日常の指導が行われている。	3.2	A				
	健康教育	22	心身の健康維持・向上に向けての支援体制の充実	生徒が心身の健康課題に適切に対応し、主体的に健康で安全な学校生活を送れるよう指導や支援を行う。	3.1	A	15	学校生活のあらゆる場面で、生徒が主体的に健康で安全に過ごせるような指導や支援が行われている。	3.2	A	12	学校生活のあらゆる場面で、生徒が主体的に健康で安全に過ごせるような指導や支援が行われている。	3.1	A
	人権教育	23	人権教育推進体制の充実	3年間を見通した人権LHR計画の作成や講演会等の実施により、自他を尊重する態度を育む。	2.9	B	16	学校生活のあらゆる場面で、他者の人権を尊重し、自分や相手を大切にしようとする態度の育成が図られている。	3.2	A	13	学校生活のあらゆる場面で、他者の人権を尊重し、自分や相手を大切にしようとする態度の育成が図られている。	3.0	B
	情報教育	24	情報活用能力と情報モラルの育成	生徒がICTを適切に活用する能力の育成とともに、SNS利用時などの情報モラルを育成する。	3.0	B	17	ICT活用技術やSNS利用時などの情報モラル育成のための指導が十分になされている。	3.2	A	14	ICT活用技術やSNS利用時などの情報モラル育成のための指導が十分になされている。	3.0	B
	環境教育・福祉教育	25	環境教育の推進	ゴミや省資源等の身近な環境問題への関心を高め、環境美化に取り組む姿勢を育てる。	3.0	B	18	ゴミや省資源等の身近な環境問題への関心を高め、環境美化に取り組む姿勢を育てる教育がなされている。	3.2	A	15	子どもたちの生活環境・学習環境はよく整えられている。	3.1	A
	学校の個性化と多様化	26	グローバル人材の育成	異なる文化や価値観を理解し尊重する態度や、コミュニケーション能力を育成する。	3.1	A	19	異なる文化や価値観を理解し尊重する態度や、コミュニケーション能力の育成が図られている。	3.1	A	16	異なる文化や価値観を理解し尊重する態度や、コミュニケーション能力の育成が図られている。	2.9	B
		27	「一生懸命がかっこいい」を具現する生徒の育成	規範意識と基本的な生活習慣が確立し、自己実現に向けて粘り強く努力できる生徒を育てる。	3.0	B	20	学校全体に、「一生懸命がかっこいい」と言えるような雰囲気がある。	3.1	A	17	学校全体に、「一生懸命がかっこいい」と言えるような雰囲気がある。	3.0	B

学校評議員からの意見

- ・学校評議員会における各部、各学年からの報告からは、同校の教職員が丸となってより良い学校運営に努めてきたことが十分に伺え、高く評価される。
- ・保護者からの評価で一部3.0に満たないものがある。これは、期待感があることの裏返しと解釈することもできる。
- ・教員からの評価で項目14にある「勤務時間の適正化推進」は評価のポイントが一番低くなっている。ワークライフバランスの実現に向けて改善が望まれる。
- ・三者による評価は一年間の実績や成果をふり返る貴重な資料であり、成果が上がった部分については今後も継続し、期待された成果を上げられなかった点は今後の課題として改善に取り組んでほしい
- ・過去に文科省、県教委によるICT利活用の先駆的な取り組みを行なった実績を生かし、学内のネットワークの運営方法の問題など課題は残されているが、引き続き他校の範となるより良い活用方法を開発してほしい。
- ・令和7年度から新しく始まる文理探究科は、内外から注目を集めている新しい教育課程であり、成功に向けて継続した取り組みが期待される。
- ・明城スポーツ大会、明城祭など生徒が主体的に取り組んだことが伺えた。生徒が輝いていた。クラスメートがエールを送っている姿を見て、いいものを見せてもらったと感じた。また、先生方が進行や運営方法を検討して生徒の体調管理に気を配るなど、枠にはまるのではなく時代の流れに応じて柔軟に対応されていることに敬意を表したい。
- ・制服の移行期間の撤廃について、生徒個人個人の判断に委ねる方法に切り替えたことで自ら考えて成長していくきっかけにもなるので良い。
- ・学校新聞はレベルが高く非常に素晴らしい。印刷してしまうと白黒になるが、PDFなどのデータでカラー写真を生かして配信するとより楽しめるのではないかな。
- ・大久保南地域の取組で、音楽部の演奏がとてもよかった。また、控室前の靴をそろえていて感心した。敬老会では、吟剣詩舞部が、演目の前に説明をしてくれて、観客は自分の孫を見るように一生懸命に舞台を見て、大変喜んでいて、防災訓練では、非営利団体の中に明石城西高等学校の生徒が一人参加していたので、知ってほしい。